

令和4年度 第1回いわき市流域治水推進会議事概要

○ 日 時 令和4年5月23日（月） 10時00分～11時30分

○ 場 所 いわき市文化センター 3階 大会議室

○ 出席者 「出席者名簿」参照

1 開 会

2 委員長挨拶

3 報告事項

(1) 本市の取り組み状況について

(事務局)

「本市の流域治水プロジェクト」、「本市の検討体制」、「個別施策の実施状況」、「個別施策で今後検討するもの」について、これまでの取り組み状況を報告した。

(2) 新たな検討体制について

(事務局)

事務局より学術機関と企業がアドバイザーとして参画することを報告した。

- ・福島工業高等専門学校 都市システム工学科 原田正光教授
- ・日本工営株式会社（令和4年4月28日 連携協定）

4 議 事

(1) 個別施策の取り組み状況と課題について

- ア 氾濫をできるだけ防ぐための対策
- イ 被害対象を減少させるための対策
- ウ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・関係部署より「流域治水プロジェクト」に位置付けられた個別施策の取り組み状況と課題等について説明した。
- ・オブザーバーより洪水調節施設の検討状況及び水害リスク情報に係る検討状況などの情報提供を受けた。
- ・アドバイザーより、他自治体の取り組み事例の情報提供を受けた。

(2) 今後の取り組みについて

- ・地域関係団体等との連携方法及び流域治水の周知・啓発について検討する。

5 その他

6 閉会

○ 委員、アドバイザーからの主な意見等（要旨）

議事

1 個別施策の取り組み状況と課題について

（アドバイザー）

河川改良事業、河道掘削事業の効果について、市管理の準用河川、普通河川及び県管理の二級河川では、どのくらい流下能力が向上するか。

（委員）

市管理の準用河川及び普通河川における河川改良や河道掘削については、スポット的に対応ではあるが、従前よりも流下能力の向上が見込まれる。

（オブザーバー）

二級河川については、河川整備計画に基づき事業を実施している。また、今後の気候変動等に対応するための検討を行っている。

（アドバイザー）

ハザードマップ、水害リスクマップなど数多くマップがあることから市民への提供にあたっては、分かりやすいものとする必要があると考える。

（オブザーバー）

ハザードマップは、主に避難のために使用するが、水害リスクマップは、防災・減災のまちづくりに向けたマップであり、土地利用の参考とするものである。

2 今後の取り組みについて

（アドバイザー）

地域・関係団体等との連携について、流域治水の取り組みを市民に分かりやすく周知・啓発が重要であるので、情報の発信の仕方に工夫が必要と考える。

（事務局）

地域・関係者との連携にあたっては、流域治水に関する内容などを市民に分かりやすく周知・啓発できるように工夫していきたい。

（アドバイザー）

夏井川及び鮫川については、上流部の市町村も関係していることから、いわき市内の連携のみならず、上流部の市町村との連携も重要であると考えているが、どのように進めることを考えているか。

（事務局）

本会議の協議事項や提案事項については、上流部の市町村も関係している「夏井川・鮫川・藤原川流域治水協議会」及び「同幹事会」に提案や報告し、連携して対応していく。今後も県や流域市町村等と密に連携して流域治水を推進していきたい。